

第4回勝山市立中学校再編準備委員会 議事録

(1)日 時：令和8年3月18日（水）午後7時より（勝山市教育会館 第1研修室）

(2)参加者：準備委員19名（2名欠席）、事務局9名、報道1名、傍聴4名

(3)内 容

1. 委員長あいさつ

2. 報告事項

各部会からの報告

①総務部会

②学校運営部会

③PTA部会

④施設整備部会

3. その他

・勝山市中高一貫教育推進協議会からの報告

4. 教育長あいさつ

《委員長あいさつ》（省略）

《報告事項》

委員長 ・それでは皆様のお手元にあるレジュメに沿って会議の方を進めていきたいと思う。それではまず昨年行われた第3回の再編準備委員会以降の各部会からの報告について事務局から説明をお願いしたいと思う。最初に総務部会から願います。

（総務部会）

事務局 ・それでは私の方から総務部会の報告をさせていただく。その前に資料1をご覧ください。資料1の方が今年度の各部会の方で検討を行ってきた状況を一覧にさせていただいているものになる。あわせて、4ページの資料2については、各部会の今年度と令和8年度の検討協議内容についてまとめたものである。今から各部会の報告をを順次させていただくわけだが、こちらの方も、いわゆるメニューとして参考にご覧いただければ、理解も深まると思うので、合わせてご覧いただきたい。

・それでは総務部会について報告をする。総務部会については、第6回の総務部会を1月28日に開催した。そして決定した校章デザインの微調整について報告させていただいた。5ページの資料3-1をご覧ください。こちらの資料で大筋様々な審査を経て決めてきたものだが、微妙に文字の形であるとかサイズであるとか、こういったものを修正させていただくような検討させていただいたということで、最終的にこの修正後の最終デザインというものに決めていただいたという内容になる。この校章については、公募をさせていただいているので、この校章のデザインを考えていただいた勝山高校の上山泉紀さんに1月30日に感謝状を贈呈させていただいたというようなことも合わせて報告をさせていただいたところである。次に6ページ目、校歌についてということでご覧いただきたい。校歌の選定については、作曲については作詞を依頼している大庭 桂さんとの共作が多い姫神さん、星吉紀さんに依頼をしたい旨を提案し、作曲者として、姫神さんをお願いをする方向で進めるということを決めた

いた。なお、このほかに校訓についても協議をしている。事務局の方から新中学校が目指す学校像、生徒像から考えた素案をいくつか提案をさせていただいて、皆様方からのご意見を伺ったところである。今後は他の場にも広げて意見を伺いながら決定をしていきたいと考えている。総務部会についての報告は以上になる。

委員長 ・これは各部会ごとにいろいろご意見を伺えばよろしいか。それでは今総務部会の方より報告があったが、前回第3回目から本日までの間での、一番大きかったのはこの校章デザインの決定ということであったかと思う。これも、各児童生徒の意見やアンケートを取り入れながら、非常に時間をかけて決定されたということになる。これは決定事項での報告ということで、各メディアの方にも紹介された内容だと思う。これ以外に現在進行中のところは、もう一つの校歌のほうで進めているということになる。そういったことで、この主にこの二点の件について、何か質問とか、意見があったら、受けたいと思う。いかがか。総務部会以外の委員の方々、この校歌の方も初めてという方もいると思うので、今見ていただいて、何か気になることがあったら、意見をと思うので、よろしく願います。総務部会の方はほとんどPTA関連の会長さん方は参加されていないと思うので、特にPTAの会長さんの方でもし何かあったら、いかがか。

委員1 ・分かる範囲で結構なので、作詞作曲の進行状況でだいたい何月ぐらいに素案を出して、どういうふうに評価して、どういうふうにやっていくかというスケジュールがあればお願いしたい。

事務局 ・校歌の作詞作曲について、進捗状況とあるいは今後のスケジュールということで報告させていただくが、総務部会の方で決定していただいた後に早速、作詞の大庭さん、それから姫神さんの方にも連絡を取らせていただいて、快諾をいただいた。このいわゆる作品を作っていくという活動なので、あまりいろいろ意見を集約して、何かを書き換えてくださいとかというのは、その作品を作っていく性格上、あまり望ましくなかなということ、とりあえず、今作詞を大庭 桂さんの方をお願いして、おおかた作詞については形ができていく状況である。これを作曲の方の姫神さんの方にお渡しをしていただいて、姫神さんの方で曲をつけているというような段階に入っているかと承知をしている。ただ、作曲については時間もかかることなので、お願いしているのはこの12月ぐらいまでには何とか完成できるということにさせていただいて、来年に入った3学期ぐらいは、子ども達にその曲を知っていただいて、練習するなりしていただいて、入学式とか、この開校式には、披露ができるような準備をしていただく。そんなスケジュール感で行きたいと考えている。ただ、全く1回も皆さん方にお聞かせすることなく、これに決まりましたということにはならないように、事前に一度聞いていただけるような場合は、来年作品が出来上がり次第、聞いていただいて、ご意見をお聞きするような場を持ちたいと考えている。

委員長 ・他にいかがか。小学校のPTAの会長さんはいかがか。

委員2 ・開校式の時には、歌えるような形で持っていくということで考えているのか。

事務局 ・ご指摘のように、校歌のお披露目が、できれば開校式に合わせたいと考えている。その時に、CDか何かを流すというのではなくて、子ども達が歌ったり、場合によっては演奏したりというようなことができると、華やかになっていいかなと思うし、子ども達にも愛着を持ってもらえるのではないかなと考えているが、この辺りは今後の制作状況にもよるので、そういったところを目指したいと考えているということでお許しいただければと思う。

委員3 ・3月は卒業式とかいろいろ学校自体、忙しい時期になっている。そこに練習とかとい

うのが、なかなか正直、時間的にも厳しいのかなと思った。

事務局 ・実はこれまでの会議の中でも、校長先生方の方から、3月ぎりぎりになって、これを練習してくれと言われても、卒業式の練習等があって、とても忙しいのでというような意見もいただいている。できるだけ早めに準備ができるようにして、学校のほうに無理がかからないようにしていきたいと考えている。

委員長 ・スケジュール感も含めて、校長先生は補足的によろしいか。

委員4 ・言われたようになかなかタイトなので、時間もかなり限られているので、なかなかだが、子ども達に聞かせる時間は取れると思う。

事務局 ・補足までに、実はこの姫神さんという方は単に作曲をするだけでなく、いわゆるそのイメージソングとかデモソングみたいなものを作ったり、デモ映像を作ったりというようなこともされる方のようだ。そういったことで、全く譜面だけが来て、はい、この曲を歌ってくださいというのではなくて、いわゆるCDとか、インターネットとかで、一定聞けるような形にまで、準備をさせていただきたいと考えているので、極力子ども達は、何回か自分たちで聞いて、覚えて歌えるというようなこと。できたらいいなということで考えているので、合わせて説明をさせていただいた。

委員長 ・今の話でいけば、やはりスケジュールありきで進めるということも大事だが、実際子ども達の負担があまり深くかからないように、例えばスケジュール感を見ながら進めていただければと思うので、よろしく願います。他にはよろしいか。ではあともいろいろあるので、それでは総務部会の方からの報告内容については、以上で終了させていただきたい。ただいまの意見を踏まえながら今後作業を進めていただきたいと思いますので、よろしく願いたい。

(学校運営部会)

委員長 ・それでは次に学校運営部会の方について、事務局から報告をお願いしたい。

事務局 ・引き続き私の方から報告させていただく。学校運営部会については、第2回の11月12日以降、部会を開催していない。というのは、もう一方で、学校の具体的なことを決める中高一貫推進協議会、その中の推進委員会に属している各部会の方で細かいいろいろなことを決めていただいている。それを、共有いただくというような形を取らせていただくので、後ほどの中高一貫推進協議会からの報告の中で、学校の先生たちの会合の中で決めていただいたことを報告させていただく。そこでご意見をと思う。

委員長 ・学校運営部会の方は、当初予定されていた検討内容というのはおおむね終わっているということか。

事務局 ・今年度、特に考えなくてはいけなかった内容として、閉校式とか開校式とか、いわゆる式典に当たる部分をどうするかということを考えていたが、まず、事務局の方でどのような素案を作っていくかということを決めて、それで意見を伺うという形を取ろうと考えていたので、そこについてはPTAの役員さんが集まる会議があったので、そこで進捗をお知らせさせていただいて、全体として協議することはなかったということである。

委員長 ・今後も学校運営部会の進め方は、中高一貫推進協議会、これとある程度合致する形で、進行していくということなのか。

事務局 ・今そのようなつもりでいる。先般の推進委員会の中でも、この件に関しては、PTAの方々の意見を聞かないと、決められないという案件もあったので、並行しながら進

めていくという形を取らせていただきたいと思います。

委員長 ・合同会議的なことも可能性としては、発生するということか。

事務局 ・会議の持ち方については、あまり皆さんの負担になってもいけないので、片方で決めたことをまた片方で共有していただくような形を取るか、そこのところはまだ未定である。

委員長 ・学校運営部会の委員の皆様、今のでよろしいか。では学校運営部会の方は第2回目から今の説明のとおり、特に検討事項はないので、報告については、以上で終了とさせていただきます。

(PTA部会)

委員長 ・それでは次にPTA部会についての報告を事務局からお願いしたい。

事務局 ・それではPTA部会について、報告させていただく。資料は7ページをご覧ください。PTA部会は第3回目を3月5日木曜日に開催させていただいた。この基本的な考え、それから運行方法、バス車両、業務委託については、前回第2回目の部会、つまり前回報告させていただいた内容と、同じである。今事務局としてはこのように考えていて、議会中でもあるが、予算要求等もさせていただいている状況になる。ご覧いただければ分かるかと思うが、大体こんな感じになる。次だが、A3の大きなものになるが、次は8ページの路線図になる。全部で12号線あるが、市内一円からジオアリーナへバスが集合してそこから地下横断歩道で、新中学校へ通うということになる。帰りはその逆になるが、この路線については変わっていない。ただ、11番の赤いまるで囲んである部分があるが、鹿谷方面2と書いてあるこの路線について、従来はこの雇用促進住宅前からまっすぐ発坂へ降りていくルートが事務局案であった。それについて、志田の地区内へ入るルートについての皆さんのご意見をお伺いしたというところである。その案も検討をさせていただいた。次は9ページになるが、前回皆さんに見ていただいたのは、生徒が乗るバス停からの時刻が書いてあった。ところが路線によっては、それが出発点ではない。一般の方も乗車されるというので、例えば上から行くと、中部方面だと7時39分に始発が出る。しかし生徒が乗るバス停は7時46分に通過するというので、そういうふうに出発のバス停の時刻もいくつかの路線についてはあるので書かせていただいた。真ん中辺りにあるのは到着時刻と乗車時間ということになっている。どの路線も30分以内に一応計画はしてある。前回よりも長い時間乗っている人は遅く着くように配慮をしている。帰りはその逆だが、帰りは路線の関係で少し生徒の乗車時間が伸びている路線もある。それから次に10ページだが、最初は中学生が乗るバス停から書かれている。どのバス停で何人の生徒が乗るかというのを一覧にしてある。右側の方には、ジオアリーナまで何キロあって何分かかるとか、この路線では合計何人生徒が乗る、さらに車両としてはこういう車両、3タイプあるが、この人数が乗れるバスを用意したということが一覧になっている。ただ、前回と違うのは、一番下を見ていただくと、308という数字があるが、これはこの3月の転出入になる。この春めがけて住所が変わられたり、逆に入ってこられるという方のいま段階の最新の人数をここに反映させたものになっている。したがって前回は308だったのだが今は308になっているということで、理解いただきたいと思います。11ページは、ジオアリーナ周辺の動線になる。バスは反時計回りに回ってきて停まる場所は1番、2番、3番とある。ここで反転していただいて出ていくというこれがバスになっている。それから本当は全員バスで来てほしいのだが、都合により車で送迎になった場合は、この茶色というか、赤っぽいルートで入ってきていただく。福井方面と大野方面から入ってくるが、前回と何が違うかということ、ここで乗降所はここというように指定させていただいている。やはり駐車場でいろんなところで展開していただ

くと、危ないということで、車の動線をしっかりした。ここで乗り降りしていただく。そして大野方面に行く車はそのまま直進していただく。福井方面へ行く車はその場で反転して戻っていただく。ここで降りた生徒は紫の導線になっている。この図でいうと一番上に横断指導線という横断歩道の代わりになる線がここに引かれている。そこを渡っていただいて、後はジオアリーナの建物に沿う形で歩いてさらに回って地下横断歩道に入っていただくというこの動線をきちっとさせていただいた。これは他の課とも話をさせていただいて、除雪の関係もあるので、きちっとこの乗降所なりルートを確認してほしいということで、こんな感じになっている。それで、子ども達がどこを歩くのか分からない部分もあるということで、何か線をつけるとかゾーンを塗るとかそういう方法は検討しなくてはいけないという話になっている。次に12ページになる。これも、最新の人数ということで、真ん中にバスと書いてあるが、バスに乗車する生徒は308名になる。逆に徒歩と書いてあるが149名でバス以外になる。1.5km以上の生徒の皆さんにはバスを用意したので、原則はバスでお願いしたいということが書いてある。したがって自転車はで極力遠慮していただきたい。ところが特別な理由によりどうしてもバスがということはあるかもしれないので、それはまた特別申請書によって、自転車通学を認めるかどうかの判断をさせていただくということになっている。原則は徒歩かバスということにさせてもらったという表になる。この表でも308という最新の人数になっている。その他、最後にここに資料はないが、別途部会外で話し合っている新中学校のPTAの組織、同窓会の進捗について報告させていただいた。PTA組織については、要するに8年度で会計も全て終了するので、総会は8年度中に終わるとか、それから予算も三中で相談していただいて、何とか8年度中にどの中学校もできるだけ繰り越すことがないように予算を立てる。従って、学校によっては従来行っていた資源回収を1回に減らすとか、予算を工夫するとか、いろいろなことをしていただいている。同時に令和9年度の役員さんとか、委員会、PTA規約(案)もその会で話し合っていたらいい。原案的には今できている。それから同窓会も同窓会長さんに集まっていたらいい、話し合いをさせていただいて、今のところは、三中学校の同窓会費をみんな合わせて、当然必要な分は使ってになるが、その同窓会費で新中学校の校旗を寄贈する。三中学校の同窓会から寄贈するというところで、今進めている。以上になる。

委員長 ・ PTA部会の方からは非常に多くの検討内容の説明があったが、個々に内容を深めていきたい。最初は資料4-1にあるスクールバスについては、この基本的な考え方については当初より変動している内容のものではないと思う。次のスクールバスの路線図だが、このPTA部会ではほぼ約4年に渡ってこのスクールバスの路線も含めて、各三中学校のPTAとか単Pの方でも検討いただいてきたということで、今現在は12路線だが、最初は8路線ぐらいの案があったりした。そういう中で実際に子ども達の安全性や利便性を鑑みて最終的に12路線というところまで拡大してきたというような経緯があったかと思う。聞くと、11番目は志田地区になるところで、路線の変更依頼があるということだった。PTA部会のほうでは、12路線は基本的には最適路線ということで検討されてきたと思うが、実際この件について、PTA部会の委員の方で出てきた意見とかがあったら少し示していただければと思う。

事務局 ・ PTA部会でこの路線について出た意見を紹介する。今はまっすぐ行っている路線だが、それを志田区の中の方へ入る路線として検討してほしいということでいろいろお聞きした。そうしたところPTA部会ではどんな意見が出たかということ、大きく出たのはやはりバスが大きくなるので、ここはすれ違いができないのではないか、特に冬になると、すれ違いできないから、困るのではないか、さらにその奥へ行くと坂道があって凍るので危ないのではないかとか、結局はぐるりと回るので、時間的に少しかかるという話、小学生がその倍の距離ぐらいを歩いているのに、中学生がこの500mぐらいを歩かないのはどうなのか。半分で済むのにさらに短くなるのはどうかとかい

う意見が出た。でも一方で志田区からのこういう意見なので、尊重はしないとイケないという意見も出た。

委員長 ・ P T A部会での意見内容をかいつまんで言っていたが、 P T A部会の委員の方でもし何か補足することがあればお願いしたい。おおむね今の事務局からの報告でよろしければそれで結構だし、もう少し補足して、その時に出た意見として他の意見もあれば話していただければと思う。

事務局 ・ 志田区から出された要望書の経緯について流れだけ説明させていただく。2月18日のことだが、今ほど説明したように、雇用促進住宅の前を通ってまっすぐ発坂の方へ抜けていく路線で検討していたところだが、志田のふれ合い会館前、集落の中へ通るような路線に変えられないか、変えてほしいというような内容の要望書が教育委員会に提出された。あわせて、議会のほうにも陳情書という形で、志田地区のようなどころがあるので、市内全域のスクールバスの路線について検討し直してほしいというような陳情が提示された。この前の P T A部会でこういう要望書が出されたのでということで、委員の皆さんにご意見を伺って、今ほどのような意見をお聞きしたという経緯がある。さらにその後、議会の方の新中学校建設特別委員会の方で、陳情書として提出されたので、議案として審査されて、結果的には継続審査という判断になって明日の本会議で、おそらく継続審査という結論になるかと思う。ただ、その審査の過程の中で、やはりもう1回、区長会などに説明に行ったらどうかというような指摘があって、今区長会長さんがいらしてまだご相談もさせていただいていないが、春の、区長さんが集まる各地区の総会にお邪魔して、もう一度このバス路線について、説明させていただいて、ご意見を伺いたいと思っている。ただまだ区長会の日程も決まっていないようなところもあると聞いていて、どういうふうに説明するかとか、そういう内容について、今教育委員会の中で検討しているところである。

委員長 ・ 今ほど聞いたかと思うが、また区長会でお願いしたい。

委員1 ・ 継続審査ということで理解した。その部会の中で、志田地区からの要望書とかをメンバーで見て、それがすごくごもつてもメリットデメリットがあるのでそのメリットがしっかりいかされているのかということを見させてもらった。僕らの委員会としては、メリットと先ほど言ったデメリット、除雪があつて冬にすれ違いができないとか、いろんな小学生のことも含めた交通の形でいくと、陳情書の内容のメリットとデメリットというのが整合性が取れないのではないかという意見が出た。ということで、部会としての結論は、このままということだった。もちろんその結果、継続審査というのは全然あり得ると思う。地区の意見としては非常に大切なものということも理解しながら、審査を進めたというところで理解してほしい。

委員長 ・ 今部会の話があつたように、 P T A部会の方では、当然各地区からの要望ということで、無視するわけにはいかない。そのあたりを踏まえて結果的に、継続審査ということで報告をいただいた。これについてはまた来年度、継続して各路線の最適化というか、そういうものについて再度検討が求められているという認識でいきたい。あくまでこれは確かに、子ども達の安全、基本的には車での送り迎えによる学校周辺の車の渋滞による障害等の緩和になる。あと各ご家族への負担を減らすためのバス利用というところがあるので、そういった中でバスが最適に利用できる環境というものをもう一度検討させていただくという方向で進めていかざるを得ないのかと考えている。他に何かあるか。

委員2 ・ 今ほど P T A部会の方でスクールバスがメインでほぼ100%だったのだが、新中学校の P T A組織、行事ごとというのが一切何もなかった。口頭だけで各中学校の繰り越しの予算、今聞いたのは繰越金がほぼないよということだった。また同窓会費で校

旗を寄贈するということだが、繰り越しがないと新中学校になってから行事ができない。計画ができないのではないか。どこの中学校の行事をメインとしてやるか。北部中学校の行事をメインにするのか、中部中学校の年間の行事ごとをメインにするのか、南部中学校の年間行事をメインにするのか、そこでその校区では、毎年いくらの費用がかかって、いくらPTAに入って、使って、毎年いくらの繰越金があるのか、それが北・中・南というので新中学校になった時に、普通にやっていてどれだけあるのか、概算の金額が分からないと、新中学校で何の活動をしたらいいのかというのが計画が立てられないと思う。市P会長ということで、部会は総務部会に行ったのでPTA部会には参加できておらず、内容も聞いていなかったが、単Pの総会に出させてもらって、資源回収を1回減らすという話だった。今回最後の中学校ということで、繰り越し金も調整するような形で、資源回収を1回減らすとなった時に、新中学校になって資源回収を2回に戻せるのか。なおかつ今の中学校、小学校の資源回収だと小学校で年1回、中学校で年に2回する。各校区によって分からないが、小学校よりも中学校の方が先にする。なぜ2回しなくてはいけないのかというのは、大体6月前後で小学校とかぶるということで、中学校だけにその資源回収の新聞とかを出すこともできない。小学校のために残しておこうという家庭もある。半々ぐらいにして、資源回収で北部中学校だと9万ぐらいか。それを2回することによって18万という予算がついて、PTAの活力にもつながっている。中部校区、南部校区というと、企業も大きいし、ダンボールの回収もあって、皆さんの世帯数も多いし、もっと予算もあると思う。何が言いたいかというと結局小学校とかぶっている。そこに中学校が入る。これを年1回にするなら半期ごとで分けたらどうか。まるまる半期分の回収が行えて、潤った予算がいくのではないか。それを6月前後の資源回収で小学校中学校で取り合いになっているような形になるのは、取り合いになっていて足りないから秋もするというようなことであれば、小学校の校長会教頭会で、年1回の資源回収にしようと、そういう話になれば、小学校は何月にする、中学校は何月にしてくださいとか、中学校だと今まで中体連とか、大会があって、10月とかなかなか忙しくて、そういうことはできないかなと思うが、そこは学校の代表同士で計画を立てていただいて、一緒にするのであれば、学校同士の連携を取ってやっていただきたい。私単Pで3年ほど前から言っているが、結局何も変わらず、6月ぐらいに小学校と中学校が資源回収をしたりしている。1回にするのであれば、そういう連携を取って半期ごとの予算が充当できる回収にしたらいいのではないか。

委員長 ・まず、新中学校に持っていく予算的ところで、新中学校での実際のイベントなり行事ごとを行うにあたっての予算計画は組めないのではないかという話だったが、それについて事務局の方から何かあるか。

事務局 ・新中学校は約450名いて、PTA会費も案としては今のところは立てている。今各中学校でいただいているその会費よりも少し安く、例えば2000円を1人払っても、450人いるので、90万円になる。これで何とかなるのではないかというのが、話し合ったところになる。それから資源回収については、今度は一中になるので、1回やると全市になる。それはどうやってやるのか、あるいはものすごい負担になるのではないかとか、3回に分けるのかとかいろいろ意見も出た。だからそれは、一応新中が始まってから少し考えていった方がいいのではないかということになっている。新役員さん等が決まってから。それから、繰越金の話も出たが、できるだけ三中で繰り越しがないようにしていくのだが、それでもあまる。それは新中へそのまま持って行ってもらう。あるいは…。

委員3 ・「あるいは」の話はいい。実際いくら残るかいくら集まるか計画を立てているのか。中学校3つなくなるので、繰越金がないようにして余った同窓会費とかどうぞではなくて、三中で同窓会費で校旗を作ると言っていたが、新中学校になった時に新しい体育

館はないのでだが、体育館に何かステージの飾りとかはいらないのかどうか、中学校として記念に残る寄贈品があるのであれば、校旗だけではなくて、その予算も含めた上での繰越金なしでもいいという判断なのか、新中学校になってから資源回収のことを考えればいいというのは、このPTA部会では何を言っているのか。新中学校になっても、予算をかせぐためにどうしたらいいかという計画を立てないといけないのに、新中学校になってからでは、こと遅すぎて、そこで決めたことを保護者にこうします。お願いしますと言っても納得しないと思う。言われたように、一度にすると、忙しくなるのは分かる。業者さんもそんなにない。それだったら、北部、南部、中部という形で分ければいいと思う。先生が全部で行かないと駄目なのかという話があるかと思うが、1学年、2学年、3学年で先生はいるし、役員の方も施設員さんとか、学級委員さんとか手伝いいただけるということであれば、人はまかなえる。北部校区の資源回収が1学年の先生だとか、中部校区2学年とか、南部校区3学年の先生とかあと事務員さんが何人かいるのであればというわけでという考えの回答をいただきました。新中学校になってから考えればいいというような発言はどうか。じゃあこのPTA部会って何の話か。スクールバスだけの話ならスクールバス会でいいのではないか。PTA部会というのであれば、こういう役員のことも考えていただいた中の詳しい内容を持ってきてほしいと思う。

委員長 ・このPTA部会では、今のところ各三中での同窓会も含め、そういった役員なんかの組織体制については、三中の方でいろいろ検討いただいて、その結果をPTA部会には報告いただくという形でのスタンスでこれまで来ているので、基本的には三つの中学校のPTAで話をされている。各三中学校で、いろいろ議論していただいて、その結果を報告という形でしているわけだが、何か三中のPTA会長の方から何か補足的な説明があればお願いできるか。

委員4 ・各中学校の現状の組織と、新中学校にになった時のクラスだったりとか、役員のところについては、スムーズに移行できるように、人数のところは素案を作っている。それによって、例えば令和7年度の委員会を減らさないと、スムーズな意向ができないということで、そういうふうに変えている。各委員会の学年委員さんとか、あとは地区委員さんが大体どれぐらい必要であろうかとか、あとは配分についてというところも一応協議はしている。一応役員の人数等々については名前まで決まっていればいいのだが、まだ令和7年度なので、各学校の割り当ての人数だとか、そういったところは共有しながら各中学校進めているということで、資源回収のところも各中学校でいろんな役割というか、使い道が変わる可能性もあるし、やらないということを決定しているわけではなくて、必要であればやっていくスタンスは必要だ。そのやり方というところは検討していけばいい。PTA部会と今の組織のところではあくまで素案でいくので、そういったところはまた来年度も付け加えながらやっていけばいいのかなと思う。新中学校への繰越をするという形で、確かに現実的には繰り越しは絶対になる。ゼロで行くのはなかなか不可能だが、最終年度、やるべきことは、行事は進めて、新中学校に移行する繰越金の目途というのも大体三中は頭に入っている状態でいくので、そこは現実的には大丈夫かなと思う。

委員長 ・今話があったように、各単Pごとに実際の新中学校に向けての大体の予算規模といったものがおおむね出ている。具体的な数字としてここには出てきていないが、その辺を含めてこれについては今話があったように、次年度の部会の中で各校からの数字を上げていただいて、準備委員会の方で報告いただくというような形になるのではないかなと思う。逆に、市P連の方の打ち合わせの中では、そういう話はないのか。

委員5 ・特にはない。お金の話になると各学校でそれぞれ金額が違うので。PTA部会の事前打合せでは三中で吟味させていただいている。各予算このぐらいだというようなシミ

ュレーションも実際させてもらっている。

委員長 ・具体的に数字的には提示できないようだが、今の説明でいかがか。

委員 6 ・次に繋げるためには、年間計画というのをしっかり立てた上で対応する予算を立てる。役員が大変とか、物事をやるのは大変だ、PTAは大変だという。子どものためにと言っている親が大変と言うのはどういうことか。子どものためにするのに大変ということを経験から口に出してせずに、みんなで頑張る新しい中学校を変えるという気持ちを持ってやるべきことをやってほしい。

委員長 ・親の方が一生懸命思うことによって、子ども達も追随してくるということもあると思うので、そのところも踏まえて、次年度へ具体的に引き継ぐ中で次年度の会議の中で進めていっていただきたい。例えば小学校の資源回収の月と中学校の月がかぶるといいう話は、これは各単Pで話をしても仕方がない話で。

委員 7 ・役員で話をしても学校同士で話をしないと。

委員長 ・その辺のところはどうか。校長先生にお願いする話なのか。例えば学校の資源回収もあれば、育成会、地区の資源回収もあると思う。そういったようなところも含めて、時期を合わせていただく。例えば、市P連の中である程度、小学校はいつしよう、中学校はいつしよう、それを例えば各学校の方にあげるといいうことはできないのか。

委員 8 ・中学校がいろいろ部活の大会とかで忙しい。例えばそういう計画を立ててくださいうことで空いている日してもらえれば、調整することは可能かと思う。それをPTAの方でするよりは、学校の事務局という教頭先生がされていると思うので教頭会でしてもらった方がいいのではないか。

事務局 ・後で報告をさせていただこうと思っていたが、先ほど言った中高一貫教育推進協議会の中で、学校の先生方が、学校の先生だけでは決められないと言った話がまさにこの資源回収の話で、特に行事、何をいつにするかということを検討してきたが、その中で資源回収のことに限っては、PTAの方々とも相談しないと一方的に学校で決めるわけにいかない。先ほど言ったように、PTA部会とか、PTAの役員さんとか、そういった方々の意見を聞きながら、計画を決めていこうということ先般の委員会の中で決めていただいたので、前後したが、そういったことも新年度の協議事項の中に入れていきたいと考えている。

委員長 ・そういうことでPTA及び学校が関係した形の中で実施要項を決めるという話だったので、来年度協議会の方で進めさせていただきたいということよろしいか。他に何か。

委員 9 ・来年の検討事項として伝えたい。中学校はわからないが、子ども達にアルミ缶を持ってきてもらうような活動を今年ずっとしている。小学校も今子どもの数は減ってきているので収入がない状態。中学校は一つになるのでその分規模は大きくなるので集める量はできているかなと思う。あと地区委員についてだが、校区だけでも今20数名いる。三中集まると総勢80名超えるということなので、それだけの地区委員さんを今後まとめること。中学校の地区委員さんを小学校の中から出す地区もあるので、ある程度早い段階、年明けには、中学校の地区委員を小学校の誰かからあげる。1年生になる学年と2年生から出る学年というのが町内によって決まっている。中学校になってから決められるといきなり1年生の親からまた影響が出てくるので、いつの段階で地区委員を選出すのかということも検討していただけたらと思う。

委員長 ・ギリギリになって、地区の割り方とかそういう問題も出てくるし、地区委員自身どうするかという話もあるが、そういったようなことも含めて、時期的にできるだけ早く、

検討、決定していただきたい。その辺のことを踏まえて次年度の会議の中では進めていただければと思う。

委員 10 ・ 地区委員は絶対必要で地区委員がいないと行事が回らないのでお願いしたい。資源回収のことも、いろいろ出ていたが、勝山中学校一つでやるというのは無理もかかるし、交通的に集中的に集めるのはやはり難しい。例えば村岡とか、北部中のようにブロックごとにやった方がいいのではないかな。

委員長 ・ 確かに、育成会とかもあるので、そういった意味でいろいろ検討していかないといけない。参考になればと思うが、ある小学校での資源回収は、雪囲いとか作業奉仕の時に、実際に各家庭からダンボールとか資源を持ってきてもらって、一応学校の体育館の前に、業者に入ってもらってそこに全部乗せる。要は資源回収というわけではなくて、資源収集という方法で南小はやっておられると思う。できれば参考事例として少し話していただければと思う。

委員 11 ・ 大きく二つに分かれていて、学校の清掃や雪囲いをする方と資源回収をする方とに分かれてやっている。

委員長 ・ 自分がPTA会長をした時に、その方式に切り替えた。それまでは子どもが親と各家を回って、資源回収をするというやり方だった。実際の作業奉仕の日とか、また新たに日を設定するとなると非常に負担にもなるということで、もう作業奉仕の時に皆さん来られるので、その時にあのダンボールとか、缶とか、そういったものを全部学校へ持ってきてくださいということで、それで回収するという方式を辞めて、今のような回収にして、それによってある程度、予算の方を確保できるようになった。どうしてもPTAのいろんな行事があるので、全部という大変になる。できるだけ、いくつかの行事を同時にできないかと考えてやらせていただいた結果になる。資源回収についても、考え方によっていろいろやり方があると思うので、そういったことを含めて、これからの検討事項として、考えていただければと思う。他に何かないか。時間の方もだいぶ経過してきたので、今のPTA部会の報告事項について、意見、質問等あれば最後に受けたいと思うが、いかがか。よろしいか。それではPTA部会の方からの報告については以上ということで、いろいろご意見をいただいたので、今いただいた意見を踏まえてこれから作業を進めていただきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

(施設整備部会)

委員長 ・ それでは最後に施設整備部会の方からの報告をお願いしたい。

事務局 ・ 施設整備部会について報告させていただく。資料は13ページの5-1をご覧ください。第3回の施設整備部会は3月12日に開催した。最初に工事の進捗について説明させていただく。13ページのこの資料は校舎の工事現場の進捗になる。前回の準備委員会では、杭工事がメインということで説明させていただいたが、12月に入って、左上の①で、これは長山公園の上の方からの写真で基礎工事ということで、手前が高校の昇降口、玄関棟になる。右側は高校の体育館ということで、その真ん中の辺に基礎工事を始めている。そして、その右側、②も基礎工事でちょっと丸い形に見えるものが、杭の頭で、それと鉄筋を繋げて、基礎工事を作っている状況になる。③、④の方は基礎の背筋、鉄筋を組んでいる状況になる。続いて14ページをご覧ください。こちらの方も1月に入って、引き続き基礎工事をしている。①は長山公園の上の方から撮っている状況で、②では反対側から撮っている。右側奥に見えるのは勝山高校のリノベーション工場の足場を組んでいる状況で、その工事と合わせて、情報を共有して工事を進めている状況になる。その下が③、基礎工事の鉄筋工事で、その右側がそこにコンクリートを打った状況になっている。続いて、15ページをご覧ください。

こちらの方は1月末、まとまった降雪があって、2月の方も降雪があった。①から④の方だが、降雪があった時期は、数日間除排雪があった。機械除雪も含めて、さらにこういう複雑な場所は人力で各作業員さん一生懸命、除排雪をしながら基礎工事を進めていただいた。16ページをご覧ください。こちらの方が、現在最新の状況で、3月の様子になる。①の基礎工事と1階の躯体工事ということで、これは長山公園側から撮っている。手前の少し白くなっているのが、断熱材が敷き詰められている状況で、②は、基礎工事が最後の方に来ている状況で、国道側からの状況になる。③が1階の躯体工事ということで、床の鉄筋で、右側の④はそこにコンクリートを打設していく状況になる。続いて資料5-2、17ページをご覧ください。こちらのほうは、地下横断歩道建設工事ということで、新しい校舎とジオアリーナを結ぶ地下横断歩道の施工状況になる。17ページは12月の状況で、①は二次施工据付完了ということで、ちょうど国道157の真ん中ほどのボックスカルバートを据え付けた内部の状況になる。その横②がそれを埋め戻した状況で、左下は、埋め戻しをした後に、仮設工、矢板を引き抜いて、右側②、二次施工完了後に冬季間、工事を一旦中止して交通を開放している状況になる。続いて18ページをご覧ください。こちらの方は2月末、ホームページでも、周知させていただいているが、3月2日から三次施工と言って、勝高側の地下横断歩道の工事が始まった。大野方面からまたは福井方面からも、片側2車線を1車線として、規制区間を設けて地下横断歩道の三次施工の工事を進めさせていただいている。19ページをご覧ください。三次施工の交通規制の様子である。大野方面から福井方面に向かっている状況で、②はさらにそこをアップした状況になる。③は長山トンネルを抜けて、大野方面に向かう方向の三次施工の交通規制になる。④は公園側に、地下横断歩道昇降口の建設工事の矢板を設置している状況で、各工事とも春になって安全に留意しながら工事を進めている状況になる。施工状況は以上になる。

事務局 ・資料の20ページについて説明する。給食調理業務委託のことになる。給食調理業務委託は、保護者から要望の多い自公式給食による温かい給食やアレルギー対応などきめ細やかな配慮を継続しながら、中学校給食の調理業務等を民間事業者の優れた調理技術や衛生管理能力等のノウハウを活用し、より安心安全な給食を提供することを目的に実施する。現状令和7年度は、運営方式は同じ業務委託ということだが、デリバリー方式ということで、委託先で調理したものを、各中学校に届けるという形をとっている。食数は543食、それから令和9年度、開校後はどのようになるかと言うと、自校式、要は校舎に併設した給食調理室で調理をする。その調理員を業務委託の業者さんでお願いしたい。炊飯についても調理室で炊飯する。令和9年5月の食数の見込みは500食ということで、大体調理員6人ぐらいは配置が必要ではないかと思込んでいる。業務を委託するというので、どういう業務を委託するかというと、食材の発注であったり、研修、それから調理業務、配食・運搬・回収、そして食器・調理器具等の洗浄・消毒・保管、それからごみの処理、食材の在庫管理、作業工程表等の諸帳簿の記録、そして施設・設備の清掃及び日常点検業務という内容を業務委託したいと考えている。委託費については、今議会でお願しているところだが、令和13年度までの債務負担行為ということで、お願いしている。スケジュールについては令和8年度に入って、6月頃から業者選定の手続きに入って、8月後半9月には業者さんを決定しておきたいと考えて、ここから業者さんの準備期間ということで、3月の半ばに給食調理室が完成して、4月から委託業務開始というようなスケジュールを考えている。給食調理業務の委託については以上になる。

事務局 ・続いて、備品精査について説明する。21ページ資料5-4をご覧ください。これも前回報告させていただいたが、備品としては大きく分けると、建物が三つある。新中学校の校舎、それから勝山高校にあるが特別教室棟、それから今建設している給食室棟ということで、新しく買っていただく新調備品、それから中学校にあるものを持つ

ていく移設備品、それにかかる経費等もある。その他にもここに書いてあるような備品がいろいろある。随時進めているが、2番目のスケジュールを見ていただくと、この年度末を中心に、新中学校へ持っていく備品に印をつけていただいている。いわゆるラベリング作業を各中学校の先生方をお願いして行っていた。2番目は中部中へ持っていくものがあればと思うが、なかなか今のところはない。それから図書の本だが、精査をして半分にしていただいたが、令和8年度の夏休みに中部中に三の中の本を全部集めて、そして、三中学校はこの夏休み以降、図書館を閉館して、市立図書館のシステム登録をお願いすることになる。一方特別教室棟の移設作業というのが新中よりも先に行われるので、ここは県と相談しながら進めていきたい。そして最後に3月の中旬から下旬にかけて、新中学校へ備品移動ということになっている。特に留意することとして、県、勝高とも連絡調整しながら進めること。それから特に令和9年3月は日程が過密になっているので早めの調整計画が必要であるということ。余剰備品も当然出てくるが、これは令和9年の4月以降に回るかもしれないと考えている。これまでが報告で、あとその他の件で新中学校の校舎の色とか教室のネーミング、1の1と書くのか、1年1組あるいは英語を入れるのかと、あるいはサインはどうするのか、教室に看板を掲げるその形。そんなことについて部会の皆様の意見をお聞きした。さらに、勝山高校の野球部に関して、長山公園グラウンドの整備状況に対するご意見をいただいた。以上になる。

委員長 ・施設整備部会の方から、新中学校の校舎の建設状況、地下横断歩道の工事状況、さらに給食調理業務委託について、備品精査等々についての報告をいただいたが、今報告いただいた内容について、何か質問や意見があればと思う。

委員1 ・先ほど説明でちらっとだけ出たが、長山公園グラウンドについて、これまでも訴えてきた通り、あのグラウンドの設備が不十分で部活動に専念できない状態となっている。これまで勝山市も整備を進めて来ているが、抜本的な根本的な問題は解決できていない状態である。一方で勝山市立中学校再編計画では部活動については生徒が十分部活動に専念できるよう対応しますと明記されている。先日の施設整備部会では現状で部活動に専念できないのは、この計画に反しているのではないかというふうに、勝山市に見解を求めたところ、やらないとは言っていない。ただ時間がかかるということを理解していただきたいという回答をいただいた。それで、時間がかかるというのは理解するが、もう2年近くこの状態で検討します、検討しますと続いている状態。生徒も不便を強いられているし、PTAの費用負担も、新しくかかっている。時間がかかるのは分かるが、期限を決めてやっていただきたい。いつまでもだらだらやっても何の解決にもならない。もう既に2年、1年半以上経っているのに何も根本的な解決ができていないということで、目安としては開校が令和9年4月なので、令和8年度中に採決をするように求める。以上になる。この準備委員会は開校後にあるのか。

事務局 ・令和9年度は今のところはない。

委員2 ・それだったら、令和8年度は多分やるのだろうから、もうこういう場がない。訴えるという場がないので、令和8年度中に採決してほしい。勝山市立中学校再編計画に基づいてやってほしい。

委員長 ・このことに対して現在検討していることがあったらお願いします。

事務局 ・今のご意見は伺って、精一杯努力をさせていただくということしか言えない。先日も監督さんに連絡を取って、今シーズンが始まるので、天井ネットについては他校を見に行なって研究させてほしいということをお伝えした。とにかくできることを一生懸命頑張っていきたいと思う。

委員長 ・抽象的な話ではないと思う。具体的にスケジュール感を含めて、令和8年度中に検討

できればそれを、例えば9年度またがるのであれば、そのころまでにある程度とか、具体性を求められていると思う。その辺についての回答は今日ここではできないかもしれない。それについては、早いうちにスケジュール感も含めて回答いただけるように検討いただきたいがいかがか。

事務局 ・先日の部会でも要望をいただいて、我々の答えがこうしますといったことを十分にやっていないということについては受け止めている。また8年度中に決めてという話は、当然要望として承るが、時間がここまでかかっているという現状も、すぐに打開できるという形ではないので、約束はできない。ただ8年度中に、天井ネットのことについては、学校や皆さんと十分話をしながら、一定のどういうふうに解決していくのかというような、そこはしっかり話し合いをもって考えていきたい。今日の時点ではしっかりとした約束はできないが、そういうふうに進めたいと考えている。

委員3 ・今決めろと言ってもなかなかだと思うが、言われているのは、私からの要望という言葉が使われているが、要望ではない。できていないことを指摘している。公共事業の補償だから、原形復帰が基本だ。もとあった機能を補償する。これができていないから指摘をしている。要望しているわけではない。この長山グラウンドに芝生を敷いてくれとか、グレードアップをお願いするのであれば、それが要望になる。最低限勝山高校グラウンド、もともとあった機能を復旧してくれと、しなければならない。今までずっと指摘をしてきた。そこだけはき違わないようにしていただきたいと思う。

委員長 ・よろしいか。今言うように…

部会長 ・野球部に関しては、初期からずっと話題になっていて進んでいる。正直全体像が見えていない部分があるが、まず予算規模を知りたい。1億かかるのか、1億5千万なのか。業者に見積もりをとれば分かること。結構学校整備にお金が増額とかで必要になってきて、さらに数億とか数千万必要になってくると、議会に通していかないといけないと思うし、そのあたりの予算感。それがなくおそらく野球部の方としても、これだけかかるのだったら数年後かなとか時間の感覚とかも違うので、できないのは多分それなりの理由があると思う。そのあたりをちゃんと話していかないと、ずっと平行線なのかなと思った。もしかすると、長山公園の利用者から反対意見も出ているかもしれない。その辺りを整理していかないといけないのではないかな。場合によっては自分も参加して、話し合いの場とかに出るし、自分ができることで、見積もりとかを取ることもできるかもしれないし、そのあたりを話し合っていきたい。

委員長 ・他の委員の方は何の話かわからない方もいるかもしれない。今ここで具体的にこれについて審議を始めると、非常に時間がかかる。基本的にはなぜできないかというところは明確にしないといけないのではないかなと思うが、それを含めて実施に向けてのこれだけではない壁がいくつかあるのだろうと思う。そういったものも一つずつクリアにして、今言われているように思いとしては要望ではない。あくまでこれは当初の状況にもう一度再度戻してもらいたいというような話だと思うので、そのところをこれからもう少し、施設整備部会を含めていろいろ具体的に検討の方に、これを大きい一つのテーマとして捉えて、これから進めていっていただく必要があるのかなと認識した。よろしくお願ひしたい。

事務局 ・ご意見を伺ったので、次年度しっかり頑張りたいと思う。

委員長 ・いろいろ多分、話の食い違いもどうもあるように思う。そのところも含めてもう少し実際に相互に情報をきちんと話し合いをすることによって解決できるところがあると思うので、そのところをしっかりと次年度には進めていきたいと思う。それを見守っていただけたらと思う。よろしいか。他に何かあれば。

委員 4 ・スケジュールの3番のところになるが、夏休み中に図書の本を中部中学校に集めるとのことだが、先生方をはじめ、PTAの方とか、保護者も大変だと思うので、この前も中部中学校の常任委員会のところ、少し話させていただいたが、地域の人とか市民の方のボランティアとかを募って、8月の夏休みに何日間ということ、もしできれば私たちが協力して図書の本の移動を協力できたらいいかなと意見をさせていただいた。日が決まれば壮年会なり区長会でいろいろと地区のメンバーで協力する体制を取りたいと思う。よろしくお願ひしたい。

委員長 ・ありがとうございます。力強いお言葉をいただいた。

事務局 ・ありがとうございます。

部会長 ・大学生も、就活とかでボランティア経験ということが問われたりもしている。そういうボランティアの情報を出していただければ、全学生に周知することができるので、また連絡してほしい。

事務局 ・温かいお言葉ありがとうございます。また検討させていただく。

委員長 ・その折にはよろしくお願ひする。他にはよろしいか。それでは質問等もないようなので、施設整備部会の方の報告についても以上で終了とさせていただきます。今出てきた事項について十分協議いただいて会の方に届けていただきたいと思いますと思うので、よろしくお願ひしたい。

《その他》

(中高一貫教育推進協議会)

委員長 ・それでは、最後になるが、勝山市中高一貫教育推進協議会からの報告を事務局の方からお願ひする。

事務局 ・では私の方から報告をさせていただきます。まずこの組織についてだが、再編準備委員会については、市内の多様なセクションの方々にお集まりいただきご意見を伺うということだが、この推進協議会については、中学校の先生と高校の先生で学校をどのように運営していくかということを決める会である。組織があつて、6つの部会がある。この後説明させていただく6つの部会だが、それぞれに3中学校の先生と高校の先生に入らせていただいているいろいろと細かいことを決めていただく。その上部団体として、推進委員会というのがある。これは各部の代表の方に集まらせていただき、各部で協議した内容を共有するという会である。現在はその推進委員会までの協議が終わっているという状況で、最終的には、さらに上位になる校長先生方に集まらせていただく、あるいは県教委の方にも入らせていただくということで、推進協議会というのがあるが、ここで最終決定をするという組織立てになっている。今日は中ほどの推進委員会で決めた内容を皆様に報告させていただいて、皆様方からいただいた意見も含めて、修正すべきものは修正をして、最終的な推進協議会にかけると、こういう段階にあるという前提で話を聞いていただければと思うので、よろしくお願ひしたい。資料の22ページをご覧ください。これまで1年かけて、そこに書いた29あるが、会議を開いてきた。各部の協議が主なものだが、そこで決めてきた内容が以上のものである。途中1回、前半部分での協議を報告させていただいているので、今回の場合は後半部分で決めた内容になる。では23ページからいつまで報告をさせていただきます。まず教育課程部会、これは学校の行事等をどのようにやっていくかということを決めていく会だが、まず令和8年度、この4月から始まる一年間について、11月には中学校の体験授業、三つにまだ学校が分かれているが、小学校の6年生の皆さんに学校へ来ていただいて、体験授業をしようということ。それから、新年度の入学説明会をこれまで11月に行なっていたが、1月の21日にジオアリーナで小学校6年生の皆さんに全

員集まっていたいて、学校説明会をするということ。登校シミュレーションについては、学校の校舎の完成状況、あるいはバスの利用状況を確認して実施していくこと。それから修了式、3月の終わりをいつ終わるのかということだが、例年だと24、25日ということになるが、18日まで繰り上げて、早く終わるというふうにして、開校の準備に間に合わせたいと考えている。その分、夏休みを27日までとして、授業時間を確保したいと考えている。離任式等については、内示等、教員の異動を見てということ、職員会についてもそこに書かせていただいたとおりである。それから新中学校のクラス編成については、かなりの労力を要するであろうということを考えていて、8月中から新中学校のクラス編成。全学年のクラス編成になるので、どのような方針でやっていくかということを決めていきたいと思うが、基本的な方針としては新2、3年生については今いる中学校の方で五つにクラスを分割していただいて、それを組み合わせるとのこと、新1年生については小規模校の学校もあるので、このあたりは子ども人間関係等十分配慮して、不安のないような配慮をしていくことが必要だということ協議をしたところである。併せて特別支援学級の在籍のお子さんの配置についても十分考慮していきたいということである。校舎見学、これもできれば校舎の完成状況を見て。閉校式開校式については基本的に閉校式は3月30日、開校式は4月8日ということ、開校式については、開校式入学式という形で、だき合わせて実施できないか。これで新1年生の皆さんも開校式に出られるようにしようという配慮である。修学旅行の立案をしなければいけないので、これについても、新1年生で協議を始めなくてはならないということを考えている。9年度の方針については、細かくは言えないが、9年度学校が始まったときに学校行事をどのようにしていくか、基本的な方向性を検討いただいたということである。この中で、先ほど話題に上がった資源回収などについては、PTAの皆様方と相談をさせていただきながら進めたい。このような形で、令和8年度9年度の大きな方向性を決めていただいたということである。今年度はさらに具体的な形になるので、いつどこでどうやってやっていくのかということ詰めていくという段になると考えている。次に24ページだが、進路支援部会として、特にこの新中学校については、連携型の中高一貫校教育を勝山高校と中学校の間で実施する。その基本的な制度の確認として、探究的な学びを中心に、勝山高校へ上がる生徒については、この6年間の学びが継続するようにしていく。それから中学校3年生の英語と数学については少人数指導ができる仕立てとして、高校の先生によるサポート授業も実施していく。それから、接続に関しては、2年生の終わりに進路希望調査を取らせていただいて、勝山高校を希望する生徒については、連携生徒として認定する。この連携生徒については、連携入試という形で、いわゆる学力試験ではない形で、勝山高校へ入学して接続していくという基本的な仕組みを共有させていただいたということになる。令和8年度取組としては、今ほど言ったように、連携型ではあるが、中高一貫ということを考えると、どのような高校に進学する生徒についても目の前の受験ということよりも、さらに先の自分の生き方をどのように生きていくのかということ十分に考えていただくことが必要になるかと考えていて、一般的にこの生き方教育、これをキャリア教育というが、こういったものをライフデザインタイムという名前と呼んで、充実させていきたいということを確認させていただいている。特に新2年生については、ライフデザインリレー講座ということで、地域の方々、できるだけ多くのいろいろな仕事であるとか、いろいろな活動をやっておられる方の話を、子ども達が聞く機会を持っていこうということ、あるいは高校生のお話であるとか職場体験であるとか、こういったことで自分の将来の生き方を十分に考えていただけるような時間を設置していこうと考えている。また1年生については、とにかく自分たちの将来の生き方にどんな選択肢があるのか、どういう生き方をしている人がいるのかということ、多様に感じていただく、知っていただくということで、これもライフデザインリレー講座としてあるが、できるだけ多くの地域の方々、あるいはいろいろなところで活動しておられる方に学校においでいただき、将来のことを考えてい

ただこうと考えている。それから、令和9年度に向けた取り組みとしては、先ほど言った通り、連携生徒についてはいわゆる一般の受験、学科試験等の代わりに連携入試という形を取るの、それに変わるものとして、放課後とか、長期休業中に、これも先ほどのライフデザインリレー講座とよく似た部分になるが、高校教員による発展的な学びの講座であるとか中学校教員による基礎力の充実講座であるとか、大学の先生とか地域の専門家による探究講座であるとか、場合によってはキャリア発見とか検証を目的とした研修旅行とか、こういったものなどを連携生徒の皆さんには、受けていただくという形をとって、勝山高校への進学に備えていただきたいと考えているということも共有しているところである。なお、この連携プログラムについては勝山高校へ必ずしも進学する生徒でなくても、希望される方については受けてもらってもいいのかなということも考えている次第である。次に25ページだが、生徒支援部会ということで、主に、校則であるとか、生徒会の組織であるとか、生徒会規約であるとかをどのようなスケジュール、あるいはどのような形で決めていこうかということも協議いただいた。詳細はご覧いただきたい。次に数学部会だが、先ほど言ったように、中高一貫教育の目玉として、数学と英語については少人数教育を行うということで、全部で5クラスあるので、3クラスを4講座に分ける、2クラスを3講座に分けるということで30数名の生徒を20人ぐらいの小規模の集団に分かれていただいて、指導を進めていきたい。そのやり方として、数学については、習熟度とあって、理解が早い生徒と基礎のところをつまずいている生徒が、教科の特性として考えられるので、こういったところについては、それぞれのレベルに合わせた丁寧な指導ができるように考えていこうと計画をしていただいた。また、高校の先生が入る入り方については、週1回どのクラスにも入っていただくが、その習熟度を踏まえて、特に理解の進んでいる生徒については、高校ではこんな勉強につながるということを教えていただくような時間をとっていこうということも計画をしている。英語については同様に3クラスを4講座、2クラスを3講座体制を取るが英語の場合はコミュニカティブというか、話をするような形で力をつけていく。特に英語を使ってしゃべるような形で力をつけていくという場面が多いので、そういった意味ではいろんな生徒が均等にというか、特段理解が進んでいるか、進んでいないかではなくて、均等にやった方がいいのではないかという意見で、普通の少人数でいこうと考えていただいた。高校の先生については同様に週1回どのクラスにも入っていただくと思っているが、月に1回は高校の先生が中心になって特別授業をやっていただくということで、高校の授業もみんなに経験していただくということを考えてはどうかと検討していただいた。それから探究については、六年間を通して、どのような積み上げをしていくのがいいのかということ、キャリアストーリーという形で、六年間を見通した年間計画の骨格となるようなものを作成している途中である。こういったものに合わせて、中学校段階でやっておくべきこと、あるいは高校でどのように進めていくかということも共有しながら検討しているという状況である。また中学校の生徒が高校の生徒の発表会を見に行くということもこれまで2年目になっていて、継続しているところである。昨年からは高校の生徒が中学校の生徒の発表会を見に来て、アドバイスをするというようなことも始まっているので、これも新年度継続的にやっていきたいということを確認したという状況である。最後の26ページについては、今ほど言ったそれぞれの部会のものを、新年度はさらに具体化していくということで、実際に実行できるようなところまで計画を詰めていくということが新年度の課題になろうかということ、協議をさせていただいたところである。長くなったが以上になる。

委員長 ・非常に充実した教育内容で進められていくことが十分理解できたのではないかと思います。ただいまの報告について意見、質問があればお願いしたい。いかがか。よろしいか。内容的には非常に細かく書かれているので、一度お持ち帰りいただいて、内容についてはご覧いただければと思うので、よろしくお願ひしたい。時間の方も押し迫っ

てきた。これで中高一貫教育推進協議会の報告については一応終了という形にさせていただく。冒頭にも話させていただいたが、今日が令和7年度の最後の準備委員会になるということで、交代される委員の皆さん方もおられるかと思う。そこで最後に各委員の皆様方にこの一年間を振り返っていただく。もしくは次年度のことでもあったらその辺も含めて簡単に一言ずつ発言いただければと思う。皆さん最後に一言ずつ言って終わらしましょう。

- 委員1 ・いろいろなことが着々と進んでいるんだなということを感じた。6年生が希望を持って、中学校に行けるように、そして新中学校にわくわくできるように小学校の方でもサポートしていきたいと思う。
- 委員2 ・加速度的にいろんな問題とか、いろんな考えなければならないことが浮き彫りになってくる状態で、また影ながら応援したいと思う。いろいろありがとうございました。
- 委員3 ・8年度に向けて7年度はかなり具体的なことが決まってきた。そのことで本校の教員にも伝達をして、9年度に向けての今年と変わるところはどこかなという感じで、どんどん準備を進めている。先ほど備品の移動に協力いただけるということで、大変心強い発言をいただいた。ありがとうございました。また来年度お世話になると思う。よろしくお願ひしたい。
- 委員4 ・令和8年度の中学生のために全力を尽くすと同時に令和9年度の準備に向けても頑張るということで、我々二足の草鞋を履くが、最後までしっかりやりたい。
- 委員5 ・個人的にはとても残念な1年間だった。長山グラウンドの件だが、事務局をお願いをさせてほしい。卒業式の祝辞で子どもにも言ったのだが、できない理由を探すのではなくて、できる方法を考えてほしい。本当に困っているのはあなた方の教え子であったり、教え子の子どもだ。どうか助けてやってほしい。来年に期待する。
- 委員6 ・1年間ありがとうございました。少し口が悪いような形でいろいろと意見させていただいたが、この1年、着実に進んで、令和8年度、また開校に向けての令和9年度に進めるかなと思う。また来年の会長と連携をとっていただいて、子ども達がわくわくするような学校の運営作りと子どもだけではなく親もコミュニケーションが取れてにぎやかな学校、にぎやかな市になれるように、検討いただければと思う。ありがとうございました。
- 委員7 ・1年間、昨年からもなるがありがとうございました。PTA部会と学校運営部会の方に出させていただいて、PTA部会の方ではPTAの規約とか、今年は本当に令和7年度の具体的な予算を3中学校で事前打ち合わせが綿密にできたのかなと思っている。予算というのは、目に見えない不安なところがあるんだなあと改めて感じたので、残り1年は次回のPTA部会が新しくなるとされると思うので、そこに期待していきたいと思う。1年間ありがとうございました。
- 委員8 ・ありがとうございました。卒業式の祝辞の時に、中部中、南部中、北部中が終了したとしても、新中学校に行ったとしても親としてPTAとしての役割は変わらないということは述べさせていただいた。来年度も新しい役員に変わるが引き続きそのように行けるようにわくわくしているのでよろしくお願ひしたい。そういう体制を中学校はしてほしい。
- 委員9 ・私の方は、今年1年だけの参加になったが、もちろんPTA部会で一番関わらせていただいた。すごい中身の濃い話だと感じた。この中でこういった再編準備委員会にも参加させていただき、たくさんの意見を聞くことができた。来年度に向けてのことだが、新中学校が本当に無事に開校をしていただくことを期待している。ありがとうご

ございました。

- 委員 10 ・初めてこういうことに関わらせていただいた。今回は特に中学校の編成にも関わらせていただいて、細かいいろいろなことがあるんだと感じた。我が子は今から中学校に通うが、詳しい内容を詰めていって今後のこういう会で決めていただければと思う。ありがとうございました。
- 委員 11 ・今年1年ありがとうございました。自分自身、まだ子どもが小さいので、PTAのことも短くて勉強することが多かったので、これからしっかり来年度の方に引き継いで中学校再編準備委員会のことも供給してしっかりいきたいと思うので、よろしく願いしたい。
- 委員 12 ・1年間ありがとうございました。1年間この会の方に関わらせていただいて、勝山中学校に向けて、今どういうふうに準備が進んでいるのかということ把握できた。子どもを見ているとまだ勝山中学校の実際に具体的に思い描けていない部分もある。でも1年間なので決まったことはどんどん保護者や子ども達に伝えて、どういう動きをするかということをもっとイメージして動けるようにこの1年間していただけたらと思う。よろしく願いしたい。
- 委員 13 ・1年間ありがとうございました。この会に参加するまではそうなるらしいよみたいなうわさ話しか分からなかった。実際に参加してみているいろいろ決まっている部分などがあって、子ども達を通して楽しく通えるように、親としても少しでも協力できるようにしていきたいと思う。ありがとうございました。
- 委員 14 ・私も1年間参加させていただいて、本当に決めることが多いということを感じました。本当に子どもが安心して通えるみたいなことが出来上がるといいと思うし、PTA部会に参加してスクールバスについても、地元からの要望があったりといったところで、皆さんが納得する回答というのは多分できないと思うが、ある程度の方が納得していただいて、今回の鹿谷地区の要望を仮に認めてしまうというか、聞いてしまったことで、それが周りに波及して、スクールバスに関することが振りだしに戻ってしまわないようにと思う。その辺り来年度しっかり話を進めていただければと思う。1年間ありがとうございました。
- 委員 15 ・皆さん、大変ご苦労様でした。私も会長になれば個人的には出なかったと思う。とても皆様に感謝する。皆さんが、土壌作りから水やり、肥料やり、いよいよ来年芽が出そうなので、大変私も嬉しく思っている。次の人を頼んでいないので、もう1年やろうかなと思っている。また来年もしも会長になれば、ここに参加して、またいろんな意見を皆さんと共に共有したいと思うので、よろしく願いしたい。
- 部会長 ・横に着々と新中学校ができていく様子を見ながら、教員も生徒も学んでいる。新しい学校が出来上がるということと、中身もしっかり整備をして、どのように受け入れるか、どのように連携していくかということをもっと具体的にやっていきたいと思っている。いろんな方のご協力を得て、本校の教育活動が行われているので引き続きいろんな方のご協力を得ながら、話し合いをさせていただきながらやっていきたいと思っている。引き続きお願いしたい。
- 部会長 ・皆さん1年間ありがとうございました。そして、事務局の方にもいつも連絡させていただいている。今年1年、工事の着工から備品の管理までかなり面倒な仕事があったかなと思う。いろいろあったが、今まで滞りなく事務を行っていただいて、ありがとうございました。今年度は結構変化が多かった年だったと思うし、来年度に関してはいよいよ工事がどんどん進んで物ができていく、いろんな物事も決まっていく。校舎についていうと、いろいろ色の話題とかサインの話題とか出たが、やはりコンセプト

に立ち返って、この建物がどういった建物であるべきかというところをみんなに共有していかないといけない。そこの共有がずれるといろんなことがずれていくと思うので、そこを子ども達と我々と市の方とずれずに広めていくことが大事かなと思う。そこが一番の共通事項としてやっていかないといけないと思っている。あまり動けなかった部分もあるので、来年はもっともっと動けるように精一杯頑張っていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

委員長 ・それでは最後に私の方から、気の付いた点など言わせていただく。まずその前に、今年度途中からこの委員長という重責をいただいて、本当に至らない点多々あったかと思うが、本当に皆さんのご協力があって、1年ありがとうございました。今年度の大体部会も含めて、内容については非常に具現化した内容に入ってきて、実は私もあの仕事をしていて、会社の方がコンピューターのシステム開発をしているが、やはりそのシステム開発に何か似てきているなという感じを受けている。具体的に、ハードウェアとソフトウェアという分け方をしたときに、ソフトウェアの部分だが、実際の運営も含めて、実は我々のシステム会社は昭和の時代には最初にガチガチに設計というか、仕様を固めて、全部システムを作り上げる。いろいろ修正が出てくると、それにいっぱい枝葉がついてきて、もう解読不能なシステムになっていくというのがこれまでのシステムで、まあそれを作り変えようとする、いわゆるスクラップアンドビルドっていう方式で1回全部捨てて、また新たに作るというようなやり方。これは従来のやり方で非常に費用がかかるし、手間がかかるやりかただった。最近はシステムの中にAI人工知能なんかも組み入れることになってきて、我々も分からない分野でもいろいろ取り組みなんかも行なっている中で、従来のやり方ではもうとてもじゃないけれども、費用、コストがかかり過ぎてできないということで、基本的にはよく言う、トライアンドエラーというやり方だが、いろいろとりあえずやってみようということで、英語でいうと、トライアルアンドエラーというやり方の開発だが、これに変わってきている。その時には昭和の時代のようにがっちがち設計固めてやってしまうと、大変なことなので、スタートの時はできるだけシンプルに簡単な形でスタートをかけて、それに対していろいろ手を加えていくというやり方を今現在やってる。まあ、今回の、先ほどのバスのこともそうだが、分からないところ、いろいろやってみないと分からない部分も多分出てくるのではないかということもある。そういったようなところを最初からこれが完璧というのではないと思う。ある程度この形で行こうというような形でのシンプルな形を想定して、それをベースにしても、トライアンドエラー方式で徐々によくしていくというやり方の方がいいのではないかなという感じを受けた。今年はそういったようなことも考えられるぐらい、かなり具体的なテーマに沿っていろいろ議論させていただいて、本当に皆様のご協力をいただいてここまでやってることができた。来年あと1年で新中学校の開校ということになるが、それに向けて、今日皆さんからいただいたご意見を含めて、よりよい新中学校になるように我々も尽力していきたいと思うので、来年度交代される方もおられるかもわからないが、また別のところでいろいろご意見をいただく中で進めていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。委員長という立場の中で皆様方本当に1年間、お世話になった。本当にどうもありがとうございました。

事務局 ・今後は本日の話しあわれたことをもとに令和8年度につなげていきたいと思う。以上で、第4回勝山市立中学校再編準備委員会を終了する。本日はお忙しい中、どうもありがとうございました。

- 資料 1. 令和 7 年度勝山市立中学校再編準備委員会の進捗について
- 資料 2. 令和 8 年度再編準備委員会（専門部会）検討・協議事項（案）
- 資料 3-1. 校章デザインの微修正について
- 資料 3-2. 校歌（作曲）について
- 資料 4-1. スクールバス通学について（案）
- 資料 4-2. スクールバス路線図（案）
- 資料 4-3. スクールバス発着時刻表（案）
- 資料 4-4. スクールバスルートと乗車人数見込（案）
- 資料 4-5. スクールバス停車位置イメージ+徒歩+送迎車の動線（案）
- 資料 4-6. スクールバス利用人数予測（案）
- 資料 5-1. 新中学校校舎等建設工事について
- 資料 5-2. 地下横断歩道建設工事について
- 資料 5-3. 給食調理業務委託について（案）
- 資料 5-4. 備品精査について（案）
- 資料 6-1. 令和 7 年度勝山市中高連携推進委員会各部会等実施状況
- 資料 6-2. 勝山市中高連携推進委員会各部会からの提案事項
- 資料 6-3. 令和 8 年度への申し送り事項（案）